

実務経験のある教員等における科目の一覧表(看護学科)

科目名	単位(時間数)		科目名	単位(時間数)	
看護技術総合演習	1	30	看護倫理	1	15
看護過程の基礎	1	30	診療の補助を支える看護技術1	1	30
高齢者の生活を支える看護技術	1	30	生活を整える看護技術(清潔・衣生活)	1	30
高齢者への看護過程	1	15	生活を整える看護技術(食事・排泄)	1	20
ケアリング論	1	15	地域で療養生活を送る対象への看護過程	1	15
健康に障がいのある子どもと家族の看護過程	1	15			
計				11	245

【実務経験の活用】

看護師として5年以上の臨床経験を活かし、上記授業において、理論と実践の整合性を取り、各科目において看護学の専門性を深める教育を行う。

専門分野

授業科目名	看護技術総合演習	
科目目的・目標	事例に対して臨床判断能力を活用し、看護援助を行うことができる。 1. 既習の知識と技術を応用し、対象に応じた日常生活援助技術が提供できる。 2. 患者の立場に立ってケアを考えることができる。 3. 自己の看護技術の振り返りができる	
授業概要	看護技術評価（チェック）を実施する。 技術チェックで実施した援助を振り返り、さらに良い援助を行うためのリフレクティブサイクルに基づいた行動をとることを身に着ける。	
担当講師	黒川由美子	
実務経験のある教員等による授業科目	大学病院にて6年間、主に急性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	2 年次前期	1単位30時間
授業計画	1 回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	2 回	看護実践（演習）
	3 回	看護実践（演習）
	4 回	リフレクション
	5 回	リフレクションに基づき再実施
	6 回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	7 回	看護実践（演習）
	8 回	看護実践（演習）
	9 回	リフレクション
	1 0 回	リフレクションに基づき再実施
	1 1 回	事例をアセスメントし、必要な看護援助を考える。
	1 2 回	看護実践（演習）
	1 3 回	看護実践（演習）
	1 4 回	リフレクション
	1 5 回	リフレクションに基づき再実施
使用テキスト	メディカ出版 デジタル・ナーシンググラフィカ22巻：臨床看護総論	
参考書		
評価方法	終講試験100点	
その他		

専門分野

授業科目名	看護過程の基礎	
科目目的・目標	事例を通して、科学的思考、問題解決思考に基づき、対象に必要な援助を提供するための一連のプロセスについて学ぶ。 1. 看護を実践するための思考過程が理解できる。 2. 事例の看護上の問題を導き出す過程が理解できる。 3. 事例の看護上の問題解決に向けての効果的な看護計画が立案できる。	
授業概要	科学的思考に基づいて、対象に必要な援助を提供するための一連の思考プロセスを学ぶ。 また、自己のクリティカルシンキング能力を養う。	
担当講師	森谷 友美	
実務経験のある教員等による授業科目	病院・老人ホームにて6年間、看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	1 年次後期	1単位30時間
授業計画	1 回	看護過程とは・看護過程のステップ
	2 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	3 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	4 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	5 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	6 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	7 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	8 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	9 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 0 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 1 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 2 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 3 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 4 回	看護過程の演習（ヘンダーソンの基本的欲求に基づく）
	1 5 回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版 デジタルナーシンググラフィカ19巻 基礎看護技術 I メディカ出版	
参考書		
評価方法	終講試験100点	
その他		

専門分野

授業科目名	高齢者の生活を支える看護技術		
科目目的・目標	老年期の特徴とその生活について理解し、高齢者の生命（命・いのち）と健康な生活の維持のための看護実践について学ぶ。 1. 高齢者に特徴的な疾患や症状をふまえ、生活機能を整えるための援助を実践する能力を身に付けることができる。 2. 高齢者の持てる力を活かした自立（自律）を目指し生活の質を維持する援助の必要性が理解できる。		
授業概要	様々な健康課題のある高齢者の、生活を支える看護について理解を深め、高齢者の生活に着目し生活の質の維持、拡充するための看護を実践する能力を身に付ける		
担当講師	山田良子		
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて12年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
開講時期：単位	2 年次後期		1単位30時間
授業計画	1 回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（講義・演習）	
	2 回	高齢者の歩行・移動を支える看護技術（演習）	
	3 回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（講義・演習）	
	4 回	高齢者の満足な食生活を支える看護技術（演習）	
	5 回	高齢者の快適な排泄を支える技術（講義・演習）	
	6 回	高齢者の快適な排泄を支える看護技術（演習）	
	7 回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（講義・演習）	
	8 回	高齢者の清潔・衣生活を支える看護技術（演習）	
	9 回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（講義・演習）	
	1 0 回	高齢者の活動と休息を支える看護技術（演習）	
	1 1 回	高齢者のコミュニケーションを支える看護技術（講義・演習）	
	1 2 回	高齢者のセクシュアリティを支える看護技術（講義・演習）	
	1 3 回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	1 4 回	高齢者の介護予防・社会参加を促進する看護技術 アクティビティケア	
	1 5 回	終講試験・まとめ	
使用テキスト	デジタルナーシング・グラフィカ31巻 老年看護学① 高齢者の健康と障害 デジタルナーシング・グラフィカ32巻 老年看護学② 高齢者の看護の実践		
参考書			
評価方法	筆記試験 80点 提出物・レポート 20点		
その他			

専門分野

授業科目名	高齢者への看護過程	
科目目的・目標	高齢者の特徴をふまえ、生活機能から見た看護展開について事例を通して学ぶ。 1. 高齢者のライフヒストリーや持てる力について情報収集ができる。 2. 加齢や疾患による機能低下と生活への影響に着目してアセスメントができる。 3. 疾患や加齢変化により起こりうる合併症について予測、予防の視点でアセスメントができる。 4. 入院前の生活を知り、退院後の生活を見据えた看護を考えることができる。	
授業概要	疾患や障害により入院した高齢者の生活への影響を考えること、高齢者の疾患の特徴をふまえて看護を実践するための考え方について学ぶ。疾患や症状だけでなく、高齢者の生活史や、持てる力をみる必要性について学ぶ。	
担当講師	山田良子	
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて12年間、主に高齢者の看護師業務に従事。実務経験を活かし、高齢者と家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	2 年次後期	1単位15時間
授業計画	1 回	生活行動モデル 事例提示
	2 回	情報の分類と問題点
	3 回	アセスメント
	4 回	アセスメント
	5 回	関連図 看護計画立案
	6 回	看護計画発表
	7 回	看護計画 実施 評価
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術	
参考書		
評価方法	終講試験100点	
その他		

專門分野

授業科目名	ケアリング論		
科目目的・目標	人間性の尊厳と多様性を尊重し、深い人間理解を基盤とした看護実践のための基礎的能力を養う。 1. ケアリングの概要を理解し説明できる。 2. 自分なりのヒューマンケア観を概念化し、表現できる。		
授業概要	M. メイヤロフやJ. ワトソンが述べるケアリング論を通して、看護実践に活用するための基礎的な知識を習得する。		
担当講師	大橋恵美子		
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて11年間、訪問看護ステーションにて1年半、看護師業務に従事。実務経験を活かし、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
開講時期：単位	1 年次後期	1単位15時間	
授業計画	1 回	ケアリングの概念（ケアとケアリング、看護との関係に関する概説）	講義
	2 回	ケアの本質（メイヤロフ）に学ぶ①	講義
	3 回	ケアの本質（メイヤロフ）に学ぶ②	講義
	4 回	ヒューマンケアの理解：患者・家族・医療・看護者間のヒューマンケア	講義
	5 回	看護実践の基盤となる看護理論とその特徴 ケアリング論：ワトソン	講義
	6 回	理論を活用した看護実践におけるケアリング①	GW
	7 回	理論を活用した看護実践におけるケアリング②	GW
	8 回	試験	
	9 回		
	1 0 回		
	1 1 回		
	1 2 回		
	1 3 回		
	1 4 回		
	1 5 回		
使用テキスト	デジタルナースンググラフィカ18巻 ケアリング論 メディカ出版		
参考書	ミルトン・メイヤロフ「ケアの本質」 ゆみる出版 ジーン・ワトソン「ワトソン看護論」 医学書院		
評価方法	レポート評価		
その他			

専門分野 小児看護学

授業科目名	健康に障がいのある子どもと家族の看護過程	
科目目的・目標	目的：健康障害や健康問題を持つ子どもとその家族を理解し、子どもの成長発達段階や健康状態、子どもと家族が置かれている様々な状況に合わせた援助を実践するために、療養行動やセルフケア能力を促進する援助について学習する。 目標：病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護を理解することができる。	
授業概要	健康を障害されることが、子ども・家族にとってどのような意味があるのか、子どもと家族の体験について学び、子どもと家族を一つの単位として捉え、健康レベルや生活背景に応じた日常生活の過ごし方、援助方法について看護過程を用いて理解する。	
担当講師	大出幸子	
実務経験のある教員等による授業科目	小児病棟にて5年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患児とその家族を理解し、対象に寄り添い、小児看護の機能と役割を理解し看護する能力を養う授業を行う。	
開講時期：単位	2年次後期	1単位15時間
授業計画	1 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 事例説明、情報整理
	2 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメント
	3 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 アセスメントの確認、関連図作成
	4 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 問題点抽出
	5 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 短期目標、長期目標、具体策立案
	6 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 看護計画発表
	7 回	健康障害のある子どもと家族の看護過程 実施・結果・評価
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ34巻 小児看護学② 小児看護技術 デジタルナーシンググラフィカ33巻 小児の発達と看護 デジタルナーシンググラフィカ35巻 小児の疾患と看護	
参考書	小児看護技術 南江堂	
評価方法	課題提出・単位認定試験	
その他		

専門分野

授業科目名	看護倫理		
科目目的・目標	倫理原則及び看護実践上の倫理的概念を理解し、看護実践において生じやすい倫理的問題とその問題へのアプローチ方法について理解を深める。 1. 倫理・看護倫理の定義を説明できる。 2. 多様な価値基準があることに気づきを示すことができる。 3. 倫理原則、重要な倫理概念を説明できる。 4. 倫理的意思決定のプロセスにおいて、倫理原則や看護実践上の重要な倫理概念を適用することができる。 5. 自己の価値観を認め、他者の価値観を尊重する態度を示すことができる。		
授業概要	看護を実践していくために必要な倫理を習得する。		
担当講師	中安ゆかり		
実務経験のある教員等による授業科目	訪問看護ステーションにて7年間看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、多角的に対象を看護する能力を養う授業を行う。		
開講時期：単位	1 年次前期	1単位15時間	
授業計画	1 回	看護倫理と歴史的変遷	
	2 回	倫理原則とケアの倫理	
	3 回	看護実践上の倫理的概念（ケアリング、アドボカシー）	
	4 回	看護実践における倫理的意思決定のプロセス	
	5 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析	
	6 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析	
	7 回	看護実践上の倫理問題に関する事例分析	
	8 回	終講試験	
	9 回		
	1 0 回		
	1 1 回		
	1 2 回		
	1 3 回		
	1 4 回		
	1 5 回		
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ18巻 看護学概論 メディカ出版		
参考書			
評価方法	終講試験100点		
その他			

専門分野

授業科目名	診療の補助を支える看護技術 1	
科目目的・目標	診療の補助技術の原理原則を学び、技能としての基礎的看護技術を習得する。 1. 診療の補助に伴う技術の正確な方法がを理解し、実施することができる。	
授業概要	本授業では、与薬の技術と生体・症状機能管理技術としての生体管理技術を学ぶ。これらの技術は身体への侵襲性の高いため、生命に対して高いリスクを持つ。このため、正確な技術を熟知して実施することができるようにする。	
担当講師	中原尚子	
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて14年間、看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	1年次後期	1単位30時間
授業計画	1 回	診察・検査に伴う援助技術
	2 回	生体検査
	3 回	検体検査
	4 回	与薬と看護①
	5 回	与薬と看護②
	6 回	与薬と看護③
	7 回	与薬と看護④
	8 回	与薬と看護⑤
	9 回	筋肉内注射（演習）
	1 0 回	筋肉内注射（演習）
	1 1 回	与薬と看護⑥
	1 2 回	点滴（演習）
	1 3 回	点滴（演習）
	1 4 回	中心静脈栄養の管理、輸血の管理
	1 5 回	試験
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法	終講試験 100点	
その他		

専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（清潔・衣生活）	
科目目的・目標	人間にとっての清潔の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 清潔・衣生活の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 清潔・衣生活に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 清潔・衣生活を阻害する要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。	
授業概要	人間にとっての「清潔」「衣生活」の意義を理解し、健康の充足や維持増進に必要な援助を学び、対象に応じた「清潔」や「衣生活」を援助するための知識・技術・態度を習得する。	
担当講師	片岡彩	
実務経験のある教員等による授業科目	5年間手術室、4年間慢性期病棟にて看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	2年次前期	1単位30時間
授業計画	1回	清潔援助の基礎知識
	2回	清潔援助の方法（入浴、シャワー浴、清拭）
	3回	清潔援助の方法（洗髪、手浴、足浴、口腔ケア、整容）
	4回	対象に応じた清潔援助（演習）
	5回	対象に応じた清潔援助（演習）
	6回	対象に応じた清潔援助（演習）
	7回	対象に応じた清潔援助（演習）
	8回	対象に応じた清潔援助（演習）
	9回	対象に応じた清潔援助（演習）
	10回	対象に応じた清潔援助（演習）
	11回	対象に応じた清潔援助（演習）
	12回	衣生活の援助の基礎知識
	13回	対象に応じた衣生活の援助（演習）
	14回	対象に応じた衣生活の援助（演習）
	15回	終講試験・まとめ
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法	終講試験 100点	
その他		

専門分野

授業科目名	生活を整える看護技術（食事・排泄）	
科目目的・目標	人間にとっての食事と排泄の意義を理解し、対象に応じた援助技術を習得する。 1. 食事・排泄の生理的、心理的、社会的意義について理解できる 2. 食事・排泄に影響を及ぼす要因について理解し、アセスメントできる。 3. 食事・排泄行動の要因をアセスメントし、対象の状態に応じた援助ができる。	
授業概要	生理的欲求である食事や排泄は、人間にとって健康の維持・生命の維持・生活の質の向上のために必要不可欠である。本授業では、より良い食事、栄養摂取方法、排泄方法から、対象に応じた食事や排泄方法を考え、援助を実施するための知識・技術・態度を習得する。	
担当講師	中原尚子	
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて14年間、看護師業務に従事。実務経験を活かし、患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	2 年次前期	1単位20時間
授業計画	1 回	食事援助の基礎知識
	2 回	対象に応じた食事介助（演習）
	3 回	対象に応じた食事介助（演習）
	4 回	対象に応じた食事介助（演習）
	5 回	排泄援助の基礎知識
	6 回	対象に応じた排泄介助（演習）
	7 回	対象に応じた排泄介助（演習）
	8 回	対象に応じた排泄介助（演習）
	9 回	対象に応じた排泄介助（演習）
	1 0 回	試験・まとめ
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ20巻 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版	
参考書		
評価方法	終講試験100点	
その他		

専門分野

授業科目名	地域で療養生活を送る対象への看護過程	
科目目的・目標	事例を通して療養者や家族、その取り巻く環境と状況に応じた在宅看護の実践を学ぶ。 1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討することができる。 2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援の方法を検討することができる。 3. 療養者とその家族のが望む生活を実現するためのケアマネジメントを考えることができる。	
授業概要	在宅療養者と家族（介護者）の事例を通して、在宅領域における看護過程を学ぶ。訪問看護過程では、看護が展開される場が生活の場であることを踏まえ、家族・社会資源・多職種連携の視点が必要であることを学ぶ。	
担当講師	和田佐知子	
実務経験のある教員等による授業科目	病院にて10年、地域包括支援センターで1年看護師業務に従事。実務経験を活かし患者とその家族を理解し、対象に対して状況に応じた看護が実践できる能力を養う。	
開講時期：単位	2 年次後期	1単位15時間
授業計画	1 回	在宅看護過程の特徴・在宅療養者と家族の情報整理
	2 回	訪問看護指示書・計画書・報告書から読み取れること
	3 回	在宅行われているケアの必要性（家族・社会資源・多職種連携の視点）
	4 回	情報のアセスメント
	5 回	情報のアセスメント
	6 回	情報のアセスメント
	7 回	情報のアセスメント
	8 回	終講試験
	9 回	
	1 0 回	
	1 1 回	
	1 2 回	
	1 3 回	
	1 4 回	
	1 5 回	
使用テキスト	デジタルナーシンググラフィカ23巻：地域療養を支えるケア デジタルナーシンググラフィカ24巻：地域療養を支える技術	
参考書		
評価方法	終講試験100点	
その他		

・実務経験のある教員の授業科目の一覧表（臨床検査学科）※新課程（省令で定める単位数等の基準数相当分）

講義要項(2) 科目コード	科目名	単位数	時間数	担当教員名	実務経験内容・それに基づく授業内容
308	血液検査学Ⅰ実習	1	40	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液一般検査、形態学を中心に臨床での検査技師の在り方を教授する。
310	血液検査学Ⅱ実習	1	40	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
317	寄生虫検査学実習	1	40	山本 徳栄	保健所検査室、病院臨床検査部、衛生研究所に従事し、寄生虫検査、微生物検査に関わる。寄生虫検査の実際について教授する。医学博士。
319	一般検査学実習	1	40	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。尿検査、尿沈渣検査を中心に、一般検査の実際について教授する。他に2級微生物・血液取得。
328	輸血・移植検査学Ⅰ	1	30	前原 光江	病院臨床検査科に従事し、輸血検査に関わる。技師長を経験し、検査全般の管理に関わる。認定輸血検査技師。輸血・移植検査全般について教授する。
329	輸血・移植検査学Ⅰ実習	1	40	徳大路 洋史	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。
335	微生物検査学Ⅰ実習	1	40	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実際について教授する。
337	微生物検査学Ⅱ実習	1	40	高橋 俊	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
342	生理機能検査学Ⅱ実習	1	40	佐藤 和	病院臨床検査科に従事し、生理機能検査に関わる。生理機能検査の実際について教授する。
344	生理機能検査学Ⅲ実習	1	40	大村 一之	大学呼吸器内科、また病院検査科に従事し、生理機能検査に関わる。肺機能検査、脳波検査、筋電図検査の実際について教授する。
355	基礎医療安全管理学	1	15	砂川 進	病院臨床検査科に従事し、検査科主幹を経験。臨床検査全般の管理業務に関わる。患者対応、リスクマネジメント、感染対策、検体採取等を中心に、医療安全について教授する。
計		11	405		

【実務経験の活用】

臨床検査学科では、臨床検査技師として5年以上の臨床経験を持つ教員の経験を活かし、理論と実践の整合性を取りその専門性を深めるための教育を行っています。

専門分野

科目名	血液検査学Ⅰ実習			科目コード	308	授業形態	実習100%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	伊藤 恵子・石田 沙妃						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液一般検査、形態学を中心に臨床での検査技師の在り方を教授する。						
授業概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身につけ、結果を導き出せること。						
授業目標	実習した結果についての考察ができ、さらに臨床的意義についても説明できる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	末梢血液標本の作製法	血液薄層塗抹標本作製	伊藤ケ・石田
2	末梢血液標本の作製法	血液薄層塗抹標本作製	伊藤ケ・石田
3	染色法	普通染色	伊藤ケ・石田
4	末梢血液像の観察	正常白血球のスケッチ	伊藤ケ・石田
5	末梢血液像の観察	白血球の百分率	伊藤ケ・石田
6	末梢血液像の観察	白血球の百分率	伊藤ケ・石田
7	末梢血液像の観察	赤血球異常形態スケッチ	伊藤ケ・石田
8	末梢血液像の観察	赤血球異常形態スケッチ	伊藤ケ・石田
9	末梢血液像の観察	白血球異常形態スケッチ	伊藤ケ・石田
10	末梢血液像の観察	白血球異常形態スケッチ	伊藤ケ・石田
11	骨髓像の観察	正常markの観察方法とスケッチ	伊藤ケ・石田
12	骨髓像の観察	正常markの観察方法とスケッチ	伊藤ケ・石田
13	特殊染色法	ペルオキシダーゼ染色	伊藤ケ・石田
14	特殊染色法	ペルオキシダーゼ染色の観察とスケッチ	伊藤ケ・石田
15	特殊染色法	エステラーゼ染色	伊藤ケ・石田
16	特殊染色法	エステラーゼ染色の観察とスケッチ	伊藤ケ・石田
17	特殊染色法	好中球アルカリホスファターゼ活性	伊藤ケ・石田
18	特殊染色法	好中球アルカリホスファターゼ活性の観察とスケッチ	伊藤ケ・石田
19	実技試験	実技試験	伊藤ケ・石田
20	実技試験	実技試験	伊藤ケ・石田
成績評価方法	終講試験50% 実技試験 30% レポート20% 課題評価:レポート内容で評価をおこなう。		
教科書	血液検査学(医歯薬出版)		
参考図書等	血液細胞アトラス(文光堂)		
授業外の学習について	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作製の時間としてください。		
備考			

専門分野

科目名	血液検査学Ⅱ実習			科目コード	310	授業形態	実習100%
選択区分	必修	履修時期	2年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	伊藤 恵子 ・ 石田 沙妃						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。						
授業概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身につけ、結果を導き出せること。						
授業目標	実習した結果についての考察ができ、さらに臨床的意義についても説明できる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	血球数算定	静脈採血	伊藤ケ・石田
2	血球数算定	自動血球算定機操作・ヘモグロビン濃度	伊藤ケ・石田
3	血球数算定	赤血球数算定(視算法)・Ht値	伊藤ケ・石田
4	血球数算定	赤血球指数計算	伊藤ケ・石田
5	血球数算定	白血球数(視算法)	伊藤ケ・石田
6	血球数算定	好酸球数(視算法)	伊藤ケ・石田
7	赤血球に関する検査	赤血球沈降速度	伊藤ケ・石田
8	赤血球に関する検査	網赤血球数	伊藤ケ・石田
9	血小板に関する検査	出血時間	伊藤ケ・石田
10	血小板に関する検査	毛細血管抵抗試験	伊藤ケ・石田
11	血小板に関する検査	血小板粘着i・血小板数算定	伊藤ケ・石田
12	血小板に関する検査	血小板凝集能	伊藤ケ・石田
13	血液凝固内因系検査	活性化部分トロンボプラスチン時間	伊藤ケ・石田
14	血液凝固内因系検査	結果の考察	伊藤ケ・石田
15	血液凝固外因系検査	プロトロンビン時間	伊藤ケ・石田
16	血液凝固外因系検査	結果の考察	伊藤ケ・石田
17	実技試験		伊藤ケ・石田
18	実技試験		伊藤ケ・石田
19	まとめ		伊藤ケ・石田
20	終講試験		伊藤ケ・石田
成績評価方法	終講試験50% 実技試験 30% レポート20%(指定したレポートが提出された者が実技試験を受けることができ、さらに実技試験合格者が終講試験を受験することができる) 課題評価:レポート内容で評価をおこなう。		
教科書	血液検査学(医歯薬出版)		
参考図書等			
授業外の学習について	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作製の時間としてください。		
備考			

専門分野

科目名	寄生虫検査学実習			科目コード	317	授業形態	講義、実習
選択区分	必修	履修時期	1年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	山本 徳栄、飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	実務経験あり。保健所検査室、病院臨床検査部、衛生研究所において、寄生虫検査、微生物検査等の業務に従事した。寄生虫学に関する技術解説の執筆、研修会の講師、認定試験委員および実習を多数担当した。医学博士。						
授業概要	① 原虫類・蠕虫類等の形態学的特徴、感染経路、宿主・寄生虫相互関係、病態、免疫学的検査および遺伝子検査について解説する。 ② 衛生動物が媒介するリケッチア症など各種感染症について解説する。 ③ 寄生虫類の同定に適した検査技術を適正に実践できるように実習を行う。 ④ 虫卵、原虫類および幼虫を鏡検し、スケッチすることで形態学的特徴を習得できるように実習を行う。 ⑤ 国家試験の過去問題について解説し、オリジナルの覚え方についても披露する。						
授業目標	① 原虫類・蠕虫類等の分類、形態、生活環、ヒトへの感染様式および病態を理解できる。 ② 寄生虫類の検査技術を学び、適正に実践して正確に形態学的同定ができる。 ③ 国家試験に合格可能な知識を習得できる。						

授業計画

回数		項 目	内 容	担 当 者
1	2	総論 原虫類総論・各論Ⅰ	寄生虫学総論 原虫類総論・各論Ⅰ	山本
3	4	原虫類各論Ⅱ 線虫類総論・各論Ⅰ	原虫類各論Ⅱ 線虫類総論・各論Ⅰ	山本
5	6	線虫類各論Ⅱ	線虫類各論Ⅱ	山本
7	8	吸虫類 糸虫類	吸虫類総論・各論 糸虫類総論・各論	山本
9	10	衛生動物学	衛生動物学総論・各論 昆虫等が媒介する各種感染症	山本
11	12	成虫と中間宿主の観察 顕微鏡の取り扱い方 薄層直接塗抹法とヨード染色 濾紙培養法 各種虫卵の観察	成虫と中間宿主の観察 顕微鏡の取り扱い方 薄層直接塗抹法とヨード染色 セロファンテープ法 濾紙培養法 各種虫卵の観察とスケッチ	山本、飯塚
13	14	MGL法(ホルマリン・エーテル法) コーン染色 各種虫卵と原虫類の観察	MGL法(ホルマリン・エーテル法) コーン染色 各種虫卵と原虫類の観察とスケッチ	山本、飯塚
15	16	クリプトスポリジウムの検出法(ショ糖浮遊法と抗酸染色) 各種虫卵と原虫類の観察	ショ糖浮遊法 Kinyoun抗酸染色 各種虫卵と原虫類の観察とスケッチ	山本、飯塚
17	18	マラリア原虫の検査法と観察	マラリア原虫の検査方法 マラリア原虫とトリパノソーマの観察とスケッチ	山本、飯塚
19	20	Anisakis 亜科線虫の同定方法 衛生害虫の観察 実習の総括 終講試験	アニサキス、シュードテラノーマ等の観察 マダニ、ツツガムシ幼虫等の観察とスケッチ 各種検査方法、各種虫卵および原虫類の形態に関する復習	山本、飯塚
成績評価方法		終講試験 50% 課題 50% 課題評価: 実習では寄生虫卵、原虫類および幼虫を鏡検し、スケッチしたものを評価する。スケッチの要点は講義および実習中に解説する。それらを理解して形態学的特徴が描けていれば80点とし、正確さにより加点、減点を行う。 要点のまとめの「学習支援テスト」を8部程度配布するので、それらを自宅で解くことで理解を深めることができる。後日、解答も提示する。 終講試験では、それらのテストの中から類似の問題を90%以上出題する。		
教科書		医動物学(南山堂)		
参考図書等		国家試験の過去問題集(市販) 山本作成の配布資料: 医動物学概論、寄生虫学のまとめ、カラーアトラス虫卵・原虫類・マラリア原虫など。		
授業外の学習について		多大なる学習内容に対して、限られた授業時間である。 参考図書および配布資料等を活用し、授業1回に対して、3時間程度の予習・復習が必要である。		
備考				

専門分野

科目名	一般検査学実習			科目コード	319	授業形態	
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。尿検査、尿沈渣検査を中心に、一般検査の実際について教授する。他に2級微生物・血液取得。						
授業概要	一般検査学で学んだ内容について、原理、臨床的意義、測定方法を理解する。						
授業目標	一般検査項目について、各検査項目の原理、臨床的意義、測定方法を理解し、説明できる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	オリエンテーション・尿試験紙法	実習の心得、注意点、洗浄、廃棄、レポートおよび原ノートの書き方等 尿試験紙法	飯塚
2	オリエンテーション・尿試験紙法	実習の心得、注意点、洗浄、廃棄、レポートおよび原ノートの書き方等 尿試験紙法	飯塚
3	尿タンパク定性	煮沸法、スルホサリチル酸法、試験紙法	飯塚
4	尿タンパク定性	煮沸法、スルホサリチル酸法、試験紙法	飯塚
5	尿糖定性・アセトン体定性	ニーランド法、ベネディクト法、試験紙法 ランゲ法、ロテラー吉川法、レガール法、試験紙法	飯塚
6	尿糖定性・アセトン体定性	ニーランド法、ベネディクト法、試験紙法 ランゲ法、ロテラー吉川法、レガール法、試験紙法	飯塚
7	ビリルビン定性・ウロビリン体定性	グメリン法、ハリソン法、イクトテスト、試験紙法、 ワーレスダイヤモンド法、シュレージンガー法、試験紙法	飯塚
8	ビリルビン定性・ウロビリン体定性	グメリン法、ハリソン法、イクトテスト、試験紙法、 ワーレスダイヤモンド法、シュレージンガー法、試験紙法	飯塚
9	潜血反応	グアヤック試験、試験紙法、血尿とHb尿の鑑別 塩析によるHb尿とミオグロビン尿の鑑別	飯塚
10	潜血反応	グアヤック試験、試験紙法、血尿とHb尿の鑑別 塩析によるHb尿とミオグロビン尿の鑑別	飯塚
11	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法	飯塚
12	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法	飯塚
13	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、正常成分と異常成分	飯塚
14	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、正常成分と異常成分	飯塚
15	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、結果の記載	飯塚
16	尿沈渣	標本作製、染色、鏡検法、結果の記載	飯塚
17	髄液検査・まとめ	フックス・ローゼンタール法	飯塚
18	実技試験	尿定性検査	飯塚
19	実技試験	尿定性検査	飯塚
20	終講試験		飯塚
成績評価方法		終講試験 60％ レポート(小テストも含めて評価) 40％	
教科書		最新 臨床検査講座 一般検査学(医歯薬出版)	
参考図書等		実習テキスト	
授業外の学習について		実習テキストの考察を解くことで、知識をひろげる。予習を必ず行い実習に臨む。	
備考			

専門分野

科目名	輸血・移植検査学Ⅰ			科目コード	328	授業形態	講義80% 演習20%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	30
担当教員	前原 光江						
実務経験とその関連資格	実務経験あり (病院臨床検査科に従事し、輸血検査に関わる。技師長を経験し、検査全般の管理に関わる。認定輸血検査技師。輸血・移植検査全般について教授する。)						
授業概要	輸血・移植療法を総合的に学び、血液製剤の種類と特性、関連する輸血検査について理解を深めることを目的とする。その為に、免疫反応や病態生理の基礎を理解する。						
授業目標	輸血・移植療法について理解する。血液製剤の種類と特性を把握し、輸血前検査の術式を習得する。輸血副作用について、その発生機序を説明できる。新生児溶血性疾患の病態を説明できる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	輸血療法とは	輸血の目的、種類、歴史、法律	前原
2	血液製剤の種類と特性	供血者、輸血製剤の種類・製造・保存	前原
3	輸血の適応と製剤の選択	輸血の適応と製剤の選択、輸血前に必要な検査	前原
4	血液型とその検査(総論)	総論:血液型の意義、抗原、歴史	前原
5	ABO式血液型	抗原、遺伝子、種類、検査法	前原
6	ABO式血液型	亜型、変異、血液型キメラとモザイク	前原
7	Rh式血液型	抗原、遺伝子、種類、検査法、変異型	前原
8	血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患	機序、病態、検査	前原
9	その他の血液型	MNS、P2PK、Lutheran、Kell、Lewis、Duffy、Kidd、Diegoなど	前原
10	赤血球抗体検査	不規則抗体の種類とスクリーニング検査、消去法	前原
11	赤血球抗体検査	不規則抗体同定検査と消去法、結果の解釈、臨床的意義	前原
12	交差適合試験	目的、検査法、意義、結果の解釈、輸血副作用、Type and Screen交差適合試験	前原
13	自己免疫性溶血性貧血と自己抗体	自己抗体の種類と病態	前原
14	輸血副作用 白血球型抗原 血小板抗原 移植	溶血性輸血副作用、輸血後GVHD、輸血後感染症 輸血関連急性肺障害(TRALI) 輸血関連循環過負荷(TACO)など HLA検査、HPA 臓器移植	前原
15	終講試験		前原
成績評価方法		終講試験 100% 授業態度についても参考にする。	
教科書		最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版) 輸血・移植検査技術教本(丸善出版)	
参考図書等			
授業外の学習について		講義で行った内容について復習する。(理解度を確認するため、講義内で小テストを実施する。評価対象にはしない)	
備考			

専門分野

科目名	輸血・移植検査学Ⅰ実習			科目コード	329	授業形態	講義10% 実習90%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	徳大路 洋史						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。						
授業概要	免疫検査法の原理を理解し、それぞれの検査法の特徴や臨床的意義を学び、免疫疾患への応用範囲についての知識を習得する。						
授業目標	抗原抗体反応を利用したいろいろな免疫検査法を理解し、それぞれの測定原理や特徴および検査法がもつそれぞれの測定意義や免疫疾患を説明できる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路
2	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路
3	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法 血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
4	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法 血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
5	凝集反応	赤血球凝集反応：寒冷凝集反応	徳大路
6	凝集反応	赤血球凝集反応：寒冷凝集反応	徳大路
7	凝集反応	梅毒血清反応：RPRカードテスト、TPPA法	徳大路
8	凝集反応	梅毒血清反応：RPRカードテスト、TPPA法	徳大路
9	沈降反応	ゲル内沈降反応：オクタロニー法	徳大路
10	沈降反応	ゲル内沈降反応：オクタロニー法	徳大路
11	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応：HBs抗体検査	徳大路
12	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応：HBs抗体検査	徳大路
13	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査：蛍光顕微鏡での観察	徳大路
14	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査：蛍光顕微鏡での観察	徳大路
15	実技試験		徳大路
16	実技試験		徳大路
17	実技試験		徳大路
18	実技試験		徳大路
19	終講試験対策等	抗核抗体検査判定・終講試験対策	徳大路
20	終講試験・解説		徳大路
成績評価方法	終講試験90% レポート10% レポート評価：レポート内容について評価を行う。		
教科書	最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版) 輸血・移植検査技術教本(丸善出版)		
参考図書等			
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	微生物検査学Ⅰ実習			科目コード	335	授業形態	講義20% 実習80%
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	飯塚 桂子						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実際について教授する。						
授業概要	適確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬をせしめることができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。						
授業目標	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べることができる。 抗菌薬の分類と代表的抗菌薬が述べられ、作用機序についても説明できる。 耐性菌を判定することができる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	基本操作 好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
2	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
3	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
4	好気性・通性嫌気性グラム陽性球菌同定法(1)(2)	<i>Staphylococcus</i> 属の同定 <i>Streptococcus</i> 属の同定	飯塚
5	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
6	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
7	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
8	同定法(3) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定①	飯塚
9	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
10	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
11	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
12	同定法(4) 通性嫌気性グラム陰性桿菌①	腸内細菌科の同定②	飯塚
13	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
14	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
15	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
16	同定法(5)(6) <i>Vibrio</i> 属 ブドウ糖非発酵菌	<i>Vibrio</i> 属・ブドウ糖非発酵菌の同定	飯塚
17	同定法(7)レジオネラ属 特殊染色	レジオネラ属の同定 異染小体染色 芽胞染色 ヒメネス染色	飯塚
18	同定法(7)レジオネラ属 特殊染色	レジオネラ属の同定 異染小体染色 芽胞染色 ヒメネス染色	飯塚
19	実技試験	グラム染色・分離培養	飯塚
20	実技試験	口頭試問	飯塚
成績評価方法	終講試験(実技試験、口頭試問、小テストを含む) 70%、レポート30%(レポート評価:レポート内容について評価を行う)。最終評価については、総合的に判断する。		
教科書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)		
参考図書等	臨床微生物検査ハンドブック(三輪書店)、微生物検査ナビ(栄研化学株式会社)		
授業外の学習について	期限内に必ず実習レポートを作成し、提出する。事前に配布される口頭試問の問題を暗記する。		
備考	実習内容によっては、実習時間外で結果の判定や実習の準備などがある。		

専門分野

科目名	微生物検査学Ⅱ 実習			科目コード	337	授業形態	講義20% 実習80%
選択区分	必修	履修時期	2年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	高橋 俊						
実務経験とその関連資格	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。						
授業概要	適確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬をしめすことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。						
授業目標	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べるすることができる。 抗菌薬の分類と代表的抗菌薬が述べられ、作用機序についても説明できる。 耐性菌を判定することができる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	その他のGNRの観察・培養	<i>Haemophilus</i> 属、 <i>Campylobacter</i> 属、 <i>Listeria</i> 属の観察と培養	高橋シ
2	抗酸菌染色	Ziehl-Neelsen染色	高橋シ
3	<i>Haemophilus</i> 属の同定	<i>Haemophilus</i> 属の同定判定(XV要求性、溶血性)	高橋シ
4	嫌気性菌・真菌の培養	<i>Clostridium</i> 属の嫌気培養・ <i>Candida</i> 属・ <i>Aspergillus</i> 属の培養	高橋シ
5	McFarland比濁法と菌数測定	マクファーランド濁度標準液の調整と菌液の培養	高橋シ
6	常在菌と起炎菌の鑑別	手指および口腔内の培養	高橋シ
7	McFarland比濁法と菌数測定	グラム染色と培養菌数測定	高橋シ
8	常在菌と起炎菌の鑑別	手指および口腔内常在菌の培養判定	高橋シ
9	薬剤感受性	ディスク拡散法・微量液体希釈法、耐性菌検査	高橋シ
10	薬剤感受性	ディスク拡散法・微量液体希釈法、耐性菌検査	高橋シ
11	薬剤感受性	薬剤感受性および耐性菌検査の判定	高橋シ
12	薬剤感受性	薬剤感受性および耐性菌検査の判定	高橋シ
13	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
14	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
15	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
16	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
17	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
18	同定検査	検体からの培養同定	高橋シ
19	実技試験	同定検査結果最終報告	高橋シ
20	実技試験	口頭試問	高橋シ
成績評価方法	終講試験(実技試験、口頭試問を含む) 70%、レポート30%(レポート評価:レポート内容について評価を行う)。最終評価については、総合的に判断する。		
教科書	最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)		
参考図書等	臨床微生物検査ハンドブック(三輪書店)、微生物検査ナビ(栄研化学株式会社)		
授業外の学習について	期限内に必ず実習レポートを作成し、提出する。事前に配布される口頭試問の問題を暗記する。		
備考	実習内容によっては、実習時間外で結果の判定や実習の準備などがある。		

専門分野

科目名	生理機能検査学Ⅱ実習			科目コード	342	授業形態	
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	40
担当教員	佐藤 和						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、生理機能検査に関わる。生理機能検査の実際について教授する。						
授業概要	呼吸機能検査、感覚機能検査						
授業目標	呼吸機能検査、感覚機能検査の意義理解し、検査説明をすることができる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	平衡機能検査	静的・動的体平衡機能検査	佐藤
2	平衡機能検査	静的・動的体平衡機能検査	佐藤
3	眼底検査	眼底撮影	佐藤
4	眼底検査	眼底撮影	佐藤
5	聴覚検査	聴覚検査	佐藤
6	聴覚検査	聴覚検査	佐藤
7	味覚検査	味覚検査	佐藤
8	味覚検査	味覚検査	佐藤
9	嗅覚検査	嗅覚検査	佐藤
10	嗅覚検査	嗅覚検査	佐藤
11	呼吸機能検査	VC・FVC	佐藤
12	呼吸機能検査	VC・FVC	佐藤
13	呼吸機能検査	FRC	佐藤
14	呼吸機能検査	DLCO	佐藤
15	呼吸機能検査	クロージングボリューム	佐藤
16	呼吸機能検査	血液ガス・実技試験内容	佐藤
17	呼吸機能検査	呼吸実技試験	佐藤
18	呼吸機能検査	呼吸実技試験	佐藤
19	呼吸機能検査	まとめ	佐藤
20	終講試験		佐藤
成績評価方法		終講試験(筆記、実技)80%+総合評価(授業態度、レポート等)20%	
教科書		最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)	
参考図書等		呼吸機能検査技術教本(丸善出版)	
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	生理機能検査学Ⅲ実習			科目コード	344	授業形態	
選択区分	必修	履修時期	2年次前期	単位数	1	時間数	40
担当教員	大村 一之、藤原 美香						
実務経験とその関連資格	実務経験あり(大学呼吸器内科、または病院検査科に従事し、生理機能検査に関わる。肺機能検査、脳波検査、筋電図検査の実際について教授する。)						
授業概要	学生自身が検者、被検者として実際に検査を行う。検査の技術と能力を養うとともに、被検者(患者様)に対する配慮、および検査データの評価を行い、生理機能検査の意義について理解する。						
授業目標	実際に検査機器を用いて、患者に対しての医療接遇や検査および計測を行い、検査の意義・技術について理解を深める。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	筋電図検査	筋電図検査の解剖生理と検査法、 自発筋電図	大村／藤原
2			
3	筋電図検査	運動神経伝導検査(MCV)、 反復神経刺激検査	大村／藤原
4			
5	筋電図検査	F波伝導検査、 感覚神経伝導検査(SCV;順行法、逆行法)	大村／藤原
6			
7	筋電図検査	H反射 判読演習	大村／藤原
8			
9	脳波検査	電極の装着(10/20電極法)	大村／藤原
10			
11	脳波検査	10/20電極法による単極導出、双極導出	大村／藤原
12			
13	脳波検査	10/20電極法による単極導出、双極導出、賦活法	大村／藤原
14			
15	脳波検査	10/20電極法による単極導出、双極導出、賦活法	大村／藤原
16			
17	筋電図検査、脳波検査	実技試験	大村／藤原
18			
19			
20	終講試験	筆記試験	大村／藤原
成績評価方法		終講試験(実技試験を含む) 80%、レポート・課題 20%(評価:レポート・課題内容について評価を行う)。最終評価は、総合的に判断する。なお、レポートの提出がなかった場合および実技試験を受けなかった場合は終講試験を受験することはできない。	
教科書		臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)、実習テキスト(PDF)	
参考図書等		解剖生理学(メディカ出版)	
授業外の学習について			
備考			

専門分野

科目名	基礎医療安全管理学			科目コード	355	授業形態	講義100%
選択区分	必修	履修時期	1年次後期	単位数	1	時間数	15
担当教員	砂川 進						
実務経験とその関連資格	病院臨床検査科に従事し、検査科主幹を経験。臨床検査全般の管理業務に関わる。						
授業概要	検体採取、タスク・シフトシェア業務の拡大に伴い、医療スタッフと患者様とのコミュニケーションスキルや医療事故での対応を理解するとともに、感染対策や安全管理を理解する。						
授業目標	患者さんやスタッフとのコミュニケーションスキルが向上する。 インシデント・アクシデント報告の重要性が理解でき、活用できるようになる。 採血や各検体採取、タスク・シフトシェア業務において、感染対策など安全管理に適した行動ができる。						

授業計画

回数	項 目	内 容	担 当 者
1	臨床検査技師と患者とのかかわり	技師と患者の関わり、接遇、コミュニケーションスキル、検査説明、チーム医療	砂川
2	リスクマネジメント	臨床検査と医療事故、インシデント・アクシデント報告(前半)	砂川
3	リスクマネジメント	インシデント・アクシデント報告(後半) 患者取り違え、検体取り違え 法的知識と責任範囲	砂川
4	感染対策	感染対策の意義と考え方、手指衛生、個人防具(PPE)の使用法、標準予防策、感染経路別予防策、ワクチン等による予防、アウトブレイク、	砂川
5	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	総論 検体採取 採血	砂川
6	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	検体採取 各部位からの検体採取 鼻腔・咽頭等、喀痰、皮膚・口腔等、消化管内視鏡検査による組織検体の採取、肛門からの検体採取	砂川
7	各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理	タスク・シフト/シェア 採血に伴う静脈路確保、静脈路への成分採血装置の接続並びに操作、超音波検査における静脈路からの造影剤注入、持続皮下グルコース検査、ほか	砂川
8	終講試験		砂川
成績評価方法		終講試験 100%	
教科書		最新臨床検査学講座 医療安全管理学(医歯薬出版)	
参考図書等		配布資料	
授業外の学習について		毎回、講義終了後に理解度確認のため小テストを実施するので、授業計画に示した範囲の教科書を事前に読んでおくこと。	
備考			

・実務経験のある教員の授業科目の一覧表（臨床検査学科）※旧課程（省令で定める単位数等の基準数相当分）

講義要項(2) ページ数	科目名	単位数	時間数	担当教員名	実務経験内容・それに基づく授業内容
P. 12	血液検査学Ⅰ（実習）	1	45	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
P. 14	血液検査学Ⅱ（実習）	1	45	伊藤 恵子	病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。
P. 21	臨床一般検査学	1	30	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。一般検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
P. 37	輸血・移植検査学Ⅰ（実習）	1	45	徳大路 洋史	病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。
P. 43	微生物検査学Ⅰ（実習）	1	45	飯塚 桂子	病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実際について教授する。
P. 45	微生物検査学Ⅱ（実習）	1	45	高橋 俊	病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床の関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。
計		6	255		

【実務経験の活用】

臨床検査学科では、臨床検査技師として5年以上の臨床経験を持つ教員の経験を活かし、理論と実践の整合性を取りその専門性を深めるための教育を行っています。

血 液 検 査 学 I (実習)

科目担当者名	伊藤 恵子・石田 沙妃
科目概要	2年・前期(1単位・45時間・必修)
授業形態	実習 100%
実務経験	実務経験あり (病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。)
教科書	血液検査学(医歯薬出版)
参考文献・資料	血液細胞アトラス(文光堂)

教育目的 概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身に付け、結果を導き出せること。
学習目標 (到達目標)	実習した結果についての考察ができ、さらに、臨床的意義についても、説明できる。

回	項 目	授 業 内 容	担当・備考
1 2	形態学1	静脈採血	伊藤・石田
3 4	形態学2	血液薄層塗抹標本作成・普通染色	伊藤・石田
5 6	形態学3	白血球分画・スケッチ	伊藤・石田
7 8	形態学4	正常Ma r k形態観察 スケッチ	伊藤・石田
9 10	形態学5	Ma r k形態観察 スケッチ	伊藤・石田
11 12	形態学6	異常血球形態観察 スケッチ	伊藤・石田
13 14	形態学7	特殊染色：好中球アルカリフォスファターゼ染色	伊藤・石田
15 16	形態学8	特殊染色：ペルオキシダーゼ染色	伊藤・石田
17 18	形態学9	特殊染色：エステラーゼ染色	伊藤・石田
19 20	実技試験		伊藤・石田
21	終講試験		伊藤
22 23	普通染色	血液薄層塗抹標本作製・普通染色・白血球分画	伊藤・石田

評価基準	終講試験 50% 実技試験 30% レポート 20% 課題評価：レポート内容で評価を行う
授業外の 学習方法	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作成の時間としてしてください。
その他	

血液検査学Ⅱ（実習）

科目担当者名 伊藤 恵子・石田 沙妃

科目概要 2年・後期（1単位・45時間・必修）

授業形態 実習 100%

実務経験 実務経験あり

（病院臨床検査科に従事し、血液検査に関わる。血液細胞数検査、血液形態検査、血液凝固検査を中心に血液検査の実際について教授する。）

教科書 血液検査学（医歯薬出版）

参考文献・資料 血液細胞アトラス（文光堂）

教育目的 概要	血液検査の目的に沿った、検査法の原理を理解できる、試薬・器具等を用意することができ、操作法を身に付け、結果を導き出せること。
学習目標 （到達目標）	実習した結果についての考察ができ、さらに、臨床的意義についても、説明できる。

1 2	血球数算定	真空採血・自動血球算定機器の操作	伊藤・石田
3 4	赤血球に関する検査	赤血球数・Ht値	伊藤・石田
5 6	赤血球に関する検査、白血球数算定	ヘモグロビン濃度・赤血球指数計算・白血球数	伊藤・石田
7 8	好酸球数算定・網赤血球数	好酸球数・網赤血球数	伊藤・石田
9 10	赤血球沈降速度	赤血球沈降速度・講義	伊藤・石田
11 12	血小板の検査1	出血時間・毛細血管抵抗試験	伊藤・石田
13 14	血小板の検査2	血小板数血小板粘着能・凝集能	伊藤・石田
15 16	凝固系の検査1	血液凝固時間・APTT	伊藤・石田
17 18	凝固系の検査2	PT	伊藤・石田
19 20	実技試験		伊藤・石田
21	終講試験		伊藤
22 23	血球形態観察	正常Mark・異常血球形態と内容異常	伊藤・石田

評価基準	終講試験 50% 実技試験 30% レポート 20% 課題評価：レポート内容で評価を行う
授業外の 学習方法	レポートを作成することで、実習内容を学習することになりますので、金曜日の放課後はレポート作成の時間としてしてください。
その他	

臨 床 一 般 検 査 学

科目担当者名 飯塚 桂子

科目概要 3年・後期（1単位・30時間・必修）

授業形態 講義 50% ・ 演習 50%

実務経験 実務経験あり

（病院臨床検査科に従事し、一般検査に関わる。認定一般検査技師。一般検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。）

教科書 最新臨床検査講座 一般検査学(医歯薬出版)

参考文献・資料

教育目的 概要	一般検査の基礎を理解し、国家試験問題に確実に対応できること、また卒業後の実務に生かせることを目標とする。
学習目標 (到達目標)	一般検査室で行われている検査項目とその臨床的意義・検査方法が説明できる。 国家試験過去問題・模擬試験で出題される問題に解答できる。

回	項 目	授 業 内 容	担当・備考
1	一般検査	基礎的事項の復習（尿検査）	飯塚
2	一般検査	基礎的事項の復習（髄液検査）	飯塚
3	一般検査	基礎的事項の復習（穿刺液検査）	飯塚
4	一般検査	確認試験（検査総論含）	飯塚
5	一般検査	確認試験（検査総論含）	飯塚
6	一般検査	尿沈渣検査①	飯塚
7	一般検査	尿沈渣検査②	飯塚
8	一般検査	基礎的事項の復習（その他の項目）	飯塚
9	一般検査	総合問題①	飯塚
10	一般検査	総合問題②	飯塚
11	一般検査	国試対策問題①	飯塚
12	一般検査	国試対策問題②	飯塚
13	一般検査	スライドテスト	飯塚
14	一般検査	スライドテスト	飯塚
15	終講試験		飯塚

評価基準	終講試験 100%
授業外の 学習方法	授業内でできなかった課題について補うこと。理解して覚えること。繰り返し知識を定着し国家試験対策をする。
その他	

輸血・移植検査学Ⅰ（実習）

科目担当者名 徳大路 洋史

科目概要 2年・前期（1単位・45時間・必修）

授業形態 講義 10% ・ 実習 90%

実務経験 実務経験あり

（病院臨床検査科に従事し、輸血・移植検査に関わる。輸血・移植検査の実際について教授する。）

教科書 最新臨床検査学講座 免疫検査学(医歯薬出版)・輸血・移植検査技術教本(丸善出版)

参考文献・資料

教育目的概要	免疫検査法の原理を理解し、それぞれの検査法の特徴や臨床的意義を学び、免疫疾患への応用範囲についての知識を習得する。
学習目標 (到達目標)	抗原抗体反応を利用したいろいろな免疫検査法を理解し、それぞれの測定原理や特徴および検査法がもつそれぞれの測定意義や免疫疾患を説明できる。

回	項目	授業内容	担当・備考
1 2	輸血・移植検査の基本技術	実験器具の取り扱い方、試薬作製	徳大路
3 4	輸血・移植検査の基本技術	採血、赤血球浮遊液の正確な調整法 血清希釈法、赤血球凝集反応	徳大路
5 6	凝集反応	赤血球凝集反応： 寒冷凝集反応	徳大路
7 8	凝集反応	梅毒血清反応： P R Pカードテスト、T P P A法	徳大路
9 10	沈降反応	ゲル内沈降反応： オクタロニー法	徳大路
11 12	蛍光抗体法 自己抗体検査	抗核抗体検査： 蛍光顕微鏡での観察	徳大路
13 14	感染症の抗原抗体検査	受身赤血球凝集反応： HBs 抗原 / HBs 抗体検査 または、固相酵素免疫測定法（E L I S A）： HBs 抗体検査	徳大路
15 16	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路
17 18	電気泳動法	免疫電気泳動法	徳大路
19 20	実技試験		徳大路
21	終講試験		徳大路
22 23	電気泳動法	免疫電気泳動法 臨床データ確認	徳大路

評価基準	終講試験 90% レポート 10% レポート評価： レポート内容について評価を行う。
授業外の 学習方法	
その他	

微生物検査学 I (実習)

科目担当者名 飯塚 桂子、高橋 俊

科目概要 2年・前期 (1単位・45時間・必修)

授業形態 講義 20% ・ 実習 80%

実務経験 実務経験あり

(病院臨床検査科に従事し、微生物検査に関わる。感染対策を含め、微生物検査の実践について教授する。)

教科書 最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)

参考文献・資料

教育目的 概要	的確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬を示すことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。
学習目標 (到達目標)	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べることができる。 抗菌薬の分類と代表的抗菌薬が述べられ、作用機序についても説明できる。 耐性菌を判定することができる。

回	項目	授業内容	担当・備考
1 2	鏡検、染色、培養	集落の観察と染色、鏡検法、培養の基本操作	飯塚、高橋
3 4	同定法	好気性または通性嫌気性球菌 1	飯塚、高橋
5 6	同定法	好気性または通性嫌気性球菌 2	飯塚、高橋
7 8	同定法	グラム陰性、通性嫌気性桿菌 1	飯塚、高橋
9 10	同定法	グラム陰性、通性嫌気性桿菌 2	飯塚、高橋
11 12	同定法	グラム陰性、好気性桿菌	飯塚、高橋
13 14	同定法	グラム陽性、好気性有芽胞桿菌	飯塚、高橋
15 16	同定法	嫌気性菌－無芽胞グラム陰性桿菌	飯塚、高橋
17 18	同定法	嫌気性菌－有芽胞グラム陽性桿菌	飯塚、高橋
19 20	実習試験		飯塚、高橋
21	終講試験		飯塚、高橋
22 23	基本操作の確認		飯塚、高橋

評価基準	終講試験 90% レポート 10% レポート評価：レポート内容について評価を行う。
授業外の 学習方法	
その他	

微生物検査学Ⅱ（実習）

科目担当者名 高橋 俊、飯塚 桂子

科目概要 2年・後期（1単位・45時間・必修）

授業形態 講義 20% ・ 実習 80%

実務経験 実務経験あり

（病院中央検査部の微生物検査に従事。微生物検査と臨床との関わりについて、国家試験内容を中心に教授する。）

教科書 最新臨床検査学講座 臨床微生物学(医歯薬出版)

参考文献・資料

教育目的 概要	的確な感染症の診断と治療を実施するため微生物の病原性や同定法、治療抗菌薬について理解し感染症の原因菌を的確に判断し治療に有効な抗菌薬を示すことができるようになる。また院内感染予防対策を実施するため耐性菌、感染経路などを理解し感染対策の中心的な役割を果たすようになる。
学習目標 (到達目標)	微生物と惹起する感染症を列挙することができる。 微生物の同定法に必要な項目を述べ、結果を判定することができる。 微生物の形態学的特徴、生物学的性状を述べることができる。 抗菌薬の分類と代表的抗菌薬がを述べられ、作用機序についても説明できる。 耐性菌を判定することができる。

1 2	真菌の同定法	真菌(酵母型)、真菌(糸状菌)	高橋、飯塚
3 4	薬剤感受性検査	寒天平板拡散法(CLSI法)とβ-ラクタマーゼの検査法、微量液体希釈法(CLSI法)	高橋、飯塚
5 6	薬剤感受性検査	MICとMBCの測定法・試験管法(日本化学療法学会)	高橋、飯塚
7 8	検査材料別検査法	尿検査法	高橋、飯塚
9 10	検査材料別検査法	咽頭・鼻咽腔粘液検査法、喀痰検査法	高橋、飯塚
11 12	検査材料別検査法	糞便検査法	高橋、飯塚
13 14	検査材料別検査法	血液、髄液、胸水、腹水、関節液検査法	高橋、飯塚
15 16	検査材料別検査法	抗酸菌の検査法、結核菌の薬剤感受性試験法	高橋、飯塚
17 18	検査材料別検査法	膿、分泌液、体腔液検査法、性感染症の検査法	高橋、飯塚
19 20	実習試験		高橋、飯塚
21	終講試験		高橋、飯塚
22 23	感染対策		高橋、飯塚

評価基準	終講試験 90% レポート 10% レポート評価：レポート内容について評価を行う。
授業外の 学習方法	
その他	